

研究課題：歴史フィールドワーク教育における、オンライングループワーク教材開発・教授方法に関する研究

2020年のコロナ禍で、地歴のフィールドワーク授業が難しくなったなか、本研究を発案した。本研究は、当初、フリップグリッドなどのソフトを活用した動画ストックの方法開発や、その活用を検討してきた。しかし、日々の授業展開、外部との交渉もあり、結果として、新しいソフトやプラットフォーム構築ではなく、研究者個人が、これまで使い慣れていたブログとユーチューブ、Googledriveの組み合わせ的な動画提示、動画活用の方法におちついていった。研究の過程で多くの90秒ほどの歴史動画をストックすることができた。

さらには、テレビ番組制作会社との連携で鬼に関する30分の番組を制作し、これを授業で活用した（卒論演習、「仕事の歴史」[鬼は金属文化の表象]）。加えて、学生が主体的に学生チャレンジプロジェクトのなかで制作した北野山本地区（異人館街）の3分のどの動画4本を、ユーチューブで公開し、これを授業で活用するようにした。

その結果、以下のような成果を得ることができた。

① on-line 授業プラットフォームの開発をめざして、宮崎・鹿児島・長崎などの近代遺産動画などを増やしていったが、次第に熊野・若狭・琵琶湖・淡路・鳴門など、関西近辺の地域歴史動画にしばって動画ストックを増やしていき、これを授業で活用した。



こうしたなか、

② BSフジとの連携「鬼の正体」30分BSフジ『ガリレオ』（2022年2月6日放送、WAC制作）を企画・監修し、これを授業、卒論指導等で活用した。作品は、2022年放送作品 映文連アワード2022部門優秀賞受賞となった。

<https://www.youtube.com/watch?v=BBcVITfIwxg>

③ 学内共同研究「地域研究と歴史研究の協働による地域連携を重視した教育研究基盤の創出」（鈴木遥先生主査、大原先生らと）や、学生主体の2022年学生チャレンジプロジェクトや、みなと観光バス・神戸まちづくり研究所と連携し、北野山本地区の地歴動画を作成した。その北野山本地区動画を、授業で活用した。



④ 「多世代多地域をつなぐマルチ対話による孤立・孤独の対処と担い手の創出プロジェクト」を、動画による地域歴史を使ったグループワークとして、RISTEX（社会実装センター）の大型研究に申請し、面接までいったが落選した。しかし、長野県飯田（天竜川筏集落）での子供活動と、柳田國男の民俗研究所のあった東京都世田谷をむすんだ、動画、on-line 対話の試みは、世田谷区の政策取り組みとして継承されることになった。

多世代・多地域の対話を通じた民俗学的研究事業（9月～）
 神戸学院大×東京大学×長野県立大学
 世田谷小中学生×世田谷高齢者×飯田小中学生の対話
 それぞれの暮らしをテーマに互いを知り、対話から得る気づきを民俗学的に分析。



結果、当初、歴史フィールドワークの動画作成とストック、活用から始まった本研究活動は、多くの歴史的動画のストックを増やした。しかし、結果としては歴史的動画を活用した、on-line、対面のハイブリッドコミュニケーションのツール、多様な暮らしの相互理解に、政策実践的に研究を展開していった。